



●緑色は別名

《目次》	1
ワサビ	2
ワスレナグサ	3
ワスレナグサ（園芸種）	4
ワタシギギク	5
ワタスゲ	6
ワダソウ	7
ワタナベソウ	8
ワビスケ系	9
ワラビ	10
ワルナスビ	11
ワレモコウ	12

【花期 3~5月】



大王わさび農場

長野県穂高町



花と葉

2003.3.18穗高



根茎は香辛料として使われる。【5】

ワサビ 山葵 〈アブラナ科ワサビ属〉

稔まれに深山しんざんの谷川たにがわの畔ほとに生え、栽培さいばいもされる多年草たねんそう。根生葉こんせいようは長柄ちようへい、ほぼ
円形えんけい、基部きぶは心形しんけい、長さ幅ながはばとも6~10cm、上面じようめんに艶つや。高さ30~40cmの茎くき
を直立ちくつ。短い総状花序みじかそうじょうかじょに多数たすうの白い十字状花しろうじじょうかをつける。花弁かべんは長さ8
~9mm。果実かじつは長角果ちようかくか、長さ17mm位ながぐらゐ。【3】【18】【32】

■名は、悪、障、疼の略と言う、辛い意味を表すと言うが無理。【18】

■学名は、*Wasabia japonica* (Miq.) Matsum.。属名のワサビアは日本語をラテン語化したもの。命名者は、東京大学植物分類学教室の第2代教授・松村任三博士。【32】

[illegible]

【花期 4～8月】

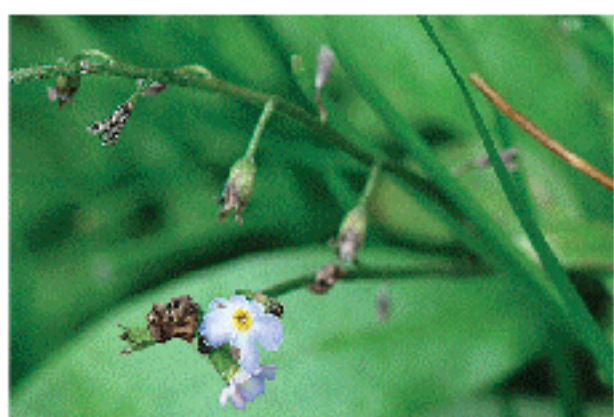


ワスレナグサ 花冠ののど元に黄色い鱗片がある【32】

2005.6.7富士見



花 1目盛りは1mm 2004.6.20伊那



花残欠・果実 2003.10.26軽井沢



葉・花序

2004.6.23伊那

ワスレナグサ 勿忘草 〈ムラサキ科ワスレナグサ属〉

欧州原産。水辺に群落をつくる多年草。高さ20～50cm。根際の葉は束生、有柄、細長いへら形、茎葉は互生、楕円状披針形、無柄、茎と葉に軟毛。尾状に捲いた穂状花序。花冠青色、径5～8mm、萼5裂、花弁5個、雄しべ5個。【5】【18】【32】【42】

■名は、英名Forget-me-notの伝説あり、私を忘れるなの意。【18】

■蕾のうちは淡い赤色で、開くと青色となる。また、気温が低いと赤色の花をつけ、高温では青色の花をつけると言われる。【10】 ■近ごろ花屋で鉢植えとして売られているものは、西洋の伝説に出てくるワスレナグサではない。本当のワスレナグサは、清流のほとりに、半分水に浸りながら生活するもの。【32】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
ワスレナグサ				●●			●	●	●			

南木哲司大要稿

【花期——月】



ワスレナグサ 白花

2017.4.27長野



花 萼

2014.4.29長野

ワスレナグサ 勿忘草 〈ムラサキ科ワスレナグサ(ミオソティス)属〉

ヨーロッパ、アジア、ニュージーランドなど世界の温帯に約50種
が分布。我が国でも長野県や北海道に野生化している。[58][77]

■園芸業界でワスレナグサとして流通しているのは、ノハラワスレナグサ(Myosotis alpestris)、エゾムラサキ(Myosotis shivatica)あるいはそれらの種間交配種である。【ウィキペディア】

■**エゾムラサキ**はヨーロッパ～アジア原産。萼は切れ込みが深く、立ち上がった鉤状の毛がある。他の**ワスレ** **ナグサ**属の毛は平たく伏している。【ウィキペディア】

■属名のミオソティスは、「ハツカネズミの耳」の意。葉の形に由来。[77]

■和名のワスレナグサは、厳密に言うと、ヨーロッパの逸話に登場するスコルビオイデス (*Myosotis scorpiodes*) が「狭い意味で本当のワスレナグサ」。(77)

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
ワスレナグサ		●●●●●●●●●●		●●	●●							

【花期 6～8月】 常緑小低木～低木



ワタスギギク 花 葉

2015.6.13小諸

ワタスギギク 綿杉菊 〈キク科ワタスギギク属〉

みなみ ちちゅうかい えんがん げんさん くき じざわ ぶんし たか
 南フランスや地中海沿岸が原産。茎は地際からよく分枝。高さ20
 ～100cm。葉は互生、披針形、灰白色の綿毛を密生。花は茎先に
 つく、頭状花、黄色。【58】【84】

- 学名は *Savtolina cyamaecyparissus* (サントリナ・カマエキバリッスス)。【58】
- 通称コットンラベンダーだが、ラベンダーとは別品種。【93】
- 特有の香りがあり、ポプリや防虫剤に利用される。【58】
- 花はドライフラワーにも適す。【93】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
ワタスギギク				●								

【花期 6～8月】



ワタスゲ

1989.7.8志賀高原



花穂

2008.6.24柵池自然園



果穂

2000.7.7志賀高原

ワタスゲ 綿菅 別名スズメノケヤリ 〈カヤツリグサ科ワタスゲ属〉

高山の湿原に生える多年草。茎は果時に高さ30～60cm、細く直立、下部は円柱形、途中に褐色の鞘、上部は三角状、緑色。根生葉は細長い三角形。発芽するとすぐ茎頭にただ1個の小穂をつける、長楕円形～卵状楕円形、鱗片多数、灰黒色、花被片は糸状、花の後のびて長さ2～2.5cm、白色、毛玉状、花柱3裂。[3][32][42]

■名は、白い毛玉のような果穂からきたもの。[3] ■別名のスズメノケヤリは、大名行列の毛槍を想わせる小さな花穂による。[3]

■ミズゴケの湿原に大群落をつくるのが常。[45]

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
ワタスゲ				●●								

【花期 4~5月】



ワダソウ

2002.5.13大町

ワダソウ 和田草 別名ヨツバハコベ〈ナダシコ科ワチガイソウ属〉

山地の草地に生える多年草。茎は枝を分けずに直立、高さ8～20cm、短い毛が2列に生える。葉は対生、下部はへら形、茎頂の2対は大きく、卵状披針形、接近して輪生状。上部葉腋の花柄に1花上向き、萼片5個、花弁5個、倒卵形、先は凹む、雄しべ10個、花柱3個。この属の特徴として、下方の節から閉鎖花を出し、球形の果実を結ぶ。[3][18][32]

■名は、長野県和田峠に多く生えることにもとづく。【3】【18】【32】

[illegible]

【花期 6～7月】

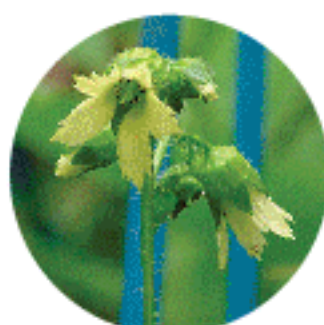


ワタナベソウ 日本に固有【47】

2006.7.6軽井沢町植物園

ワタナベソウ 渡辺草 〈ユキノシタ科ワタナベソウ属〉

四国・九州の山地の林の中に生える多年草。根生葉は1個、葉柄は長さ30cm位、葉身は円形、長さ15～35cm、幅13～30cm、ほとんど無毛、ふちは7～9中裂または深裂、茎葉は1～3個。花茎は30～60cm。萼筒は鐘形、花弁は淡黄色、長楕円形、長さ8～13mm、腺毛がある。【47】【61】



花

●名は、発見者である小学校の先生・渡辺協氏に因むとインターネット上に複数あり。

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
ワタナベソウ					0							

2015.3.27千曲



2015.3.24長野

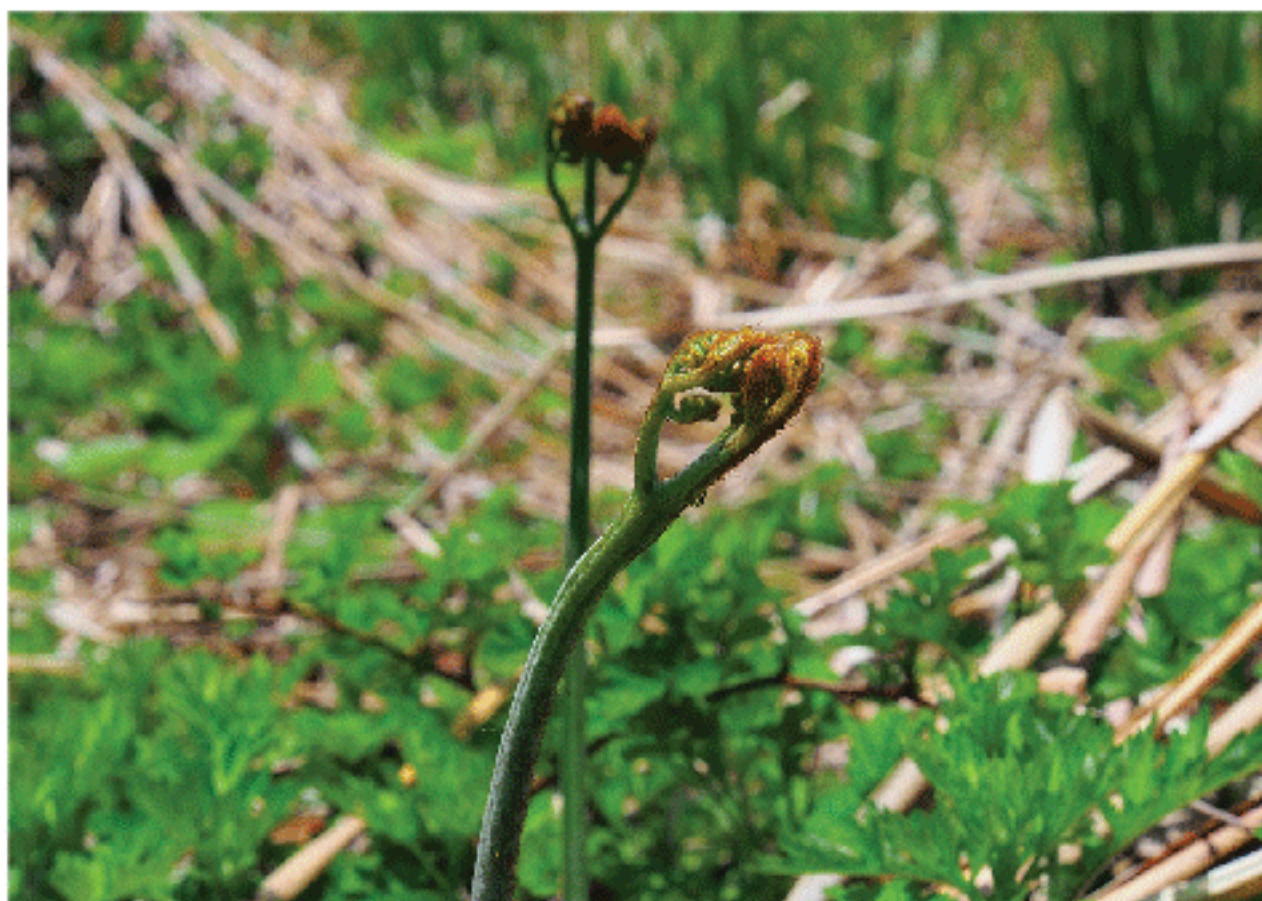
ツバキとチャノキの雑種と言われる。花は一重で小さく、半開き
 状に咲く。子房に毛が密生するものが多い。葯は退化し、花粉は
 できない。実はできない。[4][5][25]

- なぜ**侘助**かは諸説あり、「侘、数奇(すき)」の茶人が好んだからとも。【25】
- 数奇は茶の湯など風流のたしなみ。数寄屋はその茶室。【25】
- 一般に**侘助**として知られる**ツバキ**には2群ある。その1つが**ヤブツバキ**の変異。もう1群が**有楽**系で、この名は主に関西で使われ、別に太郎冠者の名も。【25】
- 茶人に好まれ、茶花や庭木とされる。【5】

[illegible]

A photograph of a fern frond, likely a fiddlehead, growing in a dense, green, leafy environment. The frond is light green and has a feathery, pinnate structure. It is surrounded by various other green plants, including some with serrated leaves. The background is a thick mass of green foliage, and a brown, woody branch is visible in the lower right corner.

2014.5.28信濃



2014.5.28信濃

日当たりのよい原野や、明るい林内に生える夏緑性のシダ植物。
高さ約1m。葉は3回羽状複葉、裂片のふちは僅かに内側に巻く、
葉の裏面のふちに沿って胞子囊群をつける。地上部は冬には枯れ
るが、根茎は残って春の発芽に備える。[15][18][28][58]

■**ワラビ**を採取したら、早くアク抜きをして処理することがコツ。なお、ビタミンBを破壊する成分が含まれているので、常食や多食はしないほうがいい。【28】

[illegible]

2013.6.25上越海岸

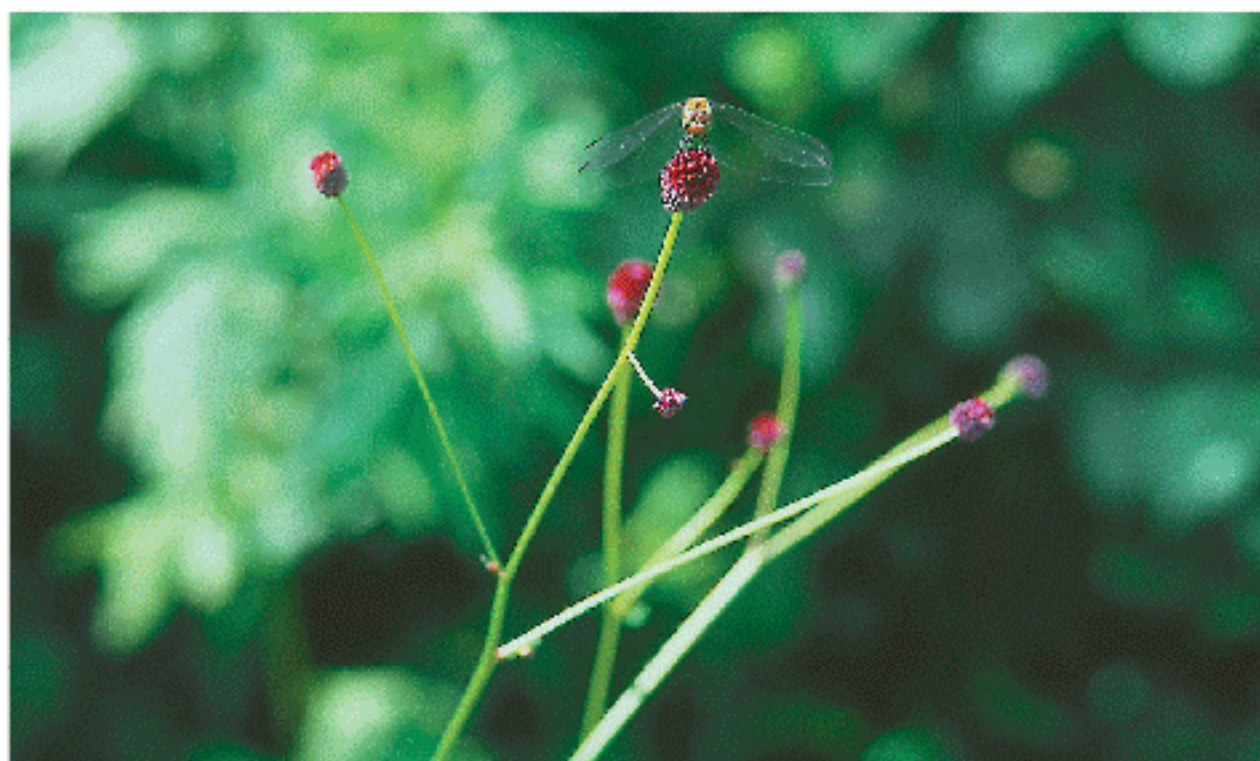


果实	2002.9.29中条
----	-------------

■名は、繁殖力が強く、茎や葉に鋭い刺が生えているので。【3】

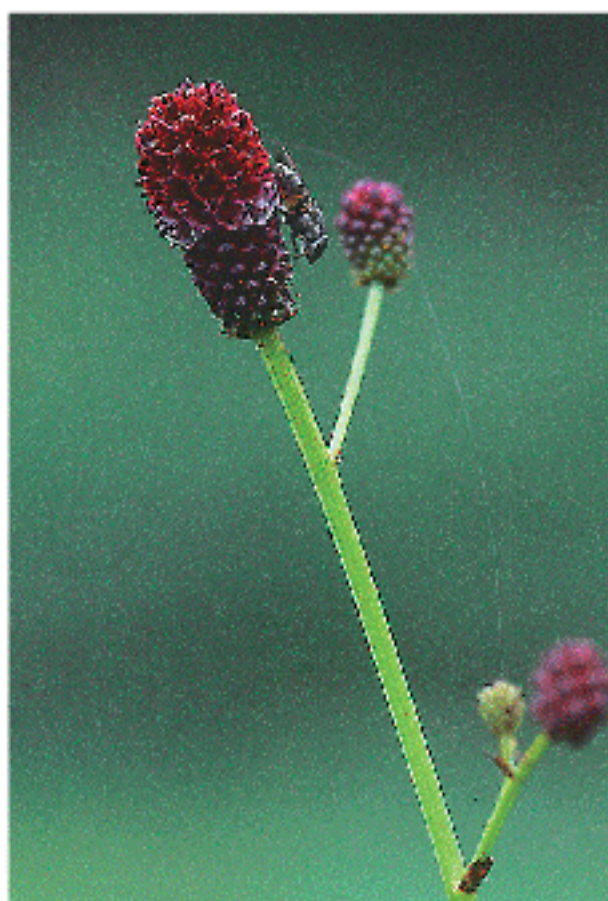
花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
ワルナスビ												

【花期 7～10月】



ワレモコウ 花序の上から下へ向けて開花していく【32】

1998.8.9鬼無里



花

2000.9.4鬼無里



2005.8.17軽井沢

ワレモコウ 吾木香・吾亦紅 〈バラ科ワレモコウ属〉

山の草原に生える多年草。茎は高さ50～100cm。葉は互生、奇数羽状複葉、小葉2～6対、托葉は葉状。枝先に円筒状の直立した花穂、長さ1～2cm、萼片4個、広楕円形、赤褐色、花弁なし、雄しべ4個、雌しべ1個。果実はそう果、四角形。【3】【18】【32】【42】

■名は、吾が国にある木香(もこう)の意とする説と、蕾の時、1つの花は木瓜紋(もっこうもん/右下)に似て、4つに割れ目が入っているため「割れ木瓜」を語源とする説がある。【2】【25】

■萼は、開花中は白色に変わり、後にまた赤褐色になる。【32】

■根と根茎を漢方で地榆(じゅ)と言い、止血・解毒に用いる。【5】



花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
ワレモコウ						●●●●●●●●						